

## 実施状況報告書

### 業務題目

「吉里吉里カルタ」を活用した、岩手県大槌町吉里吉里地区の方言「吉里吉里語」の継承と地域再生

### 1. 事業内容

(1) 「吉里吉里カルタ」(増補版)の作成と配布

「吉里吉里カルタ」(増補版)は、吉里吉里語辞典の編纂者および大槌町教育委員会の考証を経て作成した。大槌町吉里吉里地区の住民には大槌町吉里吉里地区復興協議会を通じて、300部配布した。(平成27年8月31日に贈呈式を実施)

(2) 大槌町の復興教育「ふるさと科」にて「吉里吉里カルタ」を教材とした方言や地域理解を目的とした授業(小学校3年「方言(吉里吉里語)」の単元を吉里吉里学園小学部とともに開発し、授業を実施した。

学習の成果として、吉里吉里学園小学部で開催された「きりっ子文化祭」にて、児童が発表をおこなった。さらに、「吉里吉里カルタ」を使った方言の継承と活用の授業について検証し、カリキュラム改善をすすめた。(8月31日～9月4日に授業を実施。10月にきりっ子文化祭、10月～2月に今後の単元構想についての協議と検討をした)

(3) 小学3年生用に「吉里吉里カルタ」をふるさと科の教材として配布するとともに、吉里吉里地区内の小中学生全員に配布した。(9月、250部)

(4) 岩手県大槌町吉里吉里学園中等部にて明治学院大学学生の司会のもと、全生徒とともにカルタ大会を実施した。さらに、国語授業(中学3年「伝統的な言語文化学習」の単元)にて国語科教諭により、吉里吉里語の理解と活用について学ぶ授業が実施された。(8月～9月)

(5) カルタ大会を開催し、「吉里吉里カルタ」の定着をすすめるとともに、地域の記憶、生活の営み等、共同性の継承を図った。カルタ大会は、仮設住宅集会場や小学校のPTA行事「正月遊び」、吉里吉里公民館でおこなう地域行事等で、住民とともに実施した。正月行事として実施したカルタ大会では、小学校PTAの提案により、「吉里吉里カルタ」のジャンボカルタが作成され、小学生とその保護者、地域の高齢者、教職員、学生らとともに遊んだ。(8月、1月、2月)

(6) 大槌町教育委員会を通じて、吉里吉里地区以外の大槌町内の住民にカルタを配布。

岩手県沿岸部の市町村教育委員会と連携を取り、沿岸部の小中学校(釜石市、山田町)に「吉里吉里カルタ」を配布した。「吉里吉里」という独自の文化の存在の周知をはかるとともに、「吉里吉里カルタ」には岩手県の沿岸部に共通する方言も収められていることから、沿岸部の住民が方言に目を向けるきっかけにした。

(7) 明治学院大学の学生が「吉里吉里カルタ」を活用した授業を企画、運営した(上記(2)と(4)の開発、カルタ大会実施(5))。さらに、「吉里吉里カルタ」の活用方法を学生が開発・検討した。(学生の教材用として200部利用)

(8)「吉里吉里カルタ」を用いた方言の活性化と地域再生活動についての成果と課題を以下の通り、検証した。(8月～2月)

- ・吉里吉里学園小学部「ふるさと科」の授業(方言の単元)の効果吉里吉里学園と明治学院大学ボランティアセンターが共同で検証した。吉里吉里カルタを通して、子どもたちはどのように吉里吉里語に関心を持ち、理解していったのか、子どもを対象としたアンケート調査を中心に検証をおこなった。
- ・小学生の保護者を対象にアンケートすることにより、親世代の吉里吉里語への関心の変化等を検証した。
- ・「吉里吉里カルタ」が地域内のどのような場(例えば、仮設住宅集会場や地域行事、家庭内など)で使われているのか、復興協議会等を通じて調査した。
- ・「吉里吉里カルタ」は世代間交流や、震災後、関係が分断されがちな地域内のつながり回復にどのような影響をもたらしていたか、参与観察や聞き取りにより明らかにした。

(9)「吉里吉里カルタ」普及に関するチラシを2度作成(学内印刷500部、外注印刷2,000部)し、大槌町内の役場・食堂・公民館・高齢者施設等で配布したほか、本学の勤務員や校友会、明治学院大学と協定を締結している高等学校等に配布した。(8月～11月、1月～2月)

## 2. 事業の成果

(1) 吉里吉里学園小学部の児童への影響

小学生全員にアンケート結果をおこなったところ、児童の45%が「吉里吉里弁に興味を持つようになった」と回答した。そのうち、小学3年生(ふるさと科の授業を実施)に関しては、13名中12名(92%)が「吉里吉里弁に興味を持つようになった」と回答しており、子どもたちが方言に関心を深めている様子が伺える。

アンケートの自由記述欄には「吉里吉里弁をもっと調べたいと思った」「吉里吉里弁の話聞いた言葉を使ってみた」というコメントもあり、児童が吉里吉里弁を活用したり、関心が深まっていることが分かった。

## (2) 吉里吉里学園中学部への影響

全生徒のうち 40%が「吉里吉里弁に興味を持つようになった」、50%の生徒が「吉里吉里弁の話をした」と回答しており、「吉里吉里カルタ」を通じて、方言への関心が芽生えていることが分かる。またアンケートの自由記述欄には、中学1年の生徒は「吉里吉里語辞典で意味を調べたり、使うようにもなった」「吉里吉里にこんな言葉もあるんだな」と思い、おばあちゃんやおじいちゃんと吉里吉里弁について話し合った」いうように、カルタ遊びをきっかけに生徒が方言を調べたり、祖父母世代から学んでいることも分かった。

中学2年生は「方言を普通に覚えようとする、つまらないし大変だけどこのようなカルタがあると若い子達も手軽に覚えられるのでとても良いと思います」というコメントがあり、方言に触れる方法としてのカルタの有効性があることも分かった。

中学3年生は「初めて聞く方言があり、最近使うようになった」と、方言に触れるだけでなく、活用にも効果があるといえる。そのほかには、「祭りなど吉里吉里の良い所がいっぱい書いてあってとてもうれしかったです」という記述があり、震災後の地域再生に向けて、地域を肯定的に向き合う素材としても有効であるといえる。

## (3) 吉里吉里学園小学部児童の保護者への影響

児童全員に吉里吉里カルタを配布した結果、「吉里吉里カルタに触れることで、吉里吉里弁に関心を持つようになった」と保護者の61%が回答した。吉里吉里カルタに触れる前と比べて、吉里吉里弁への認識の変化を聞いたところ、「懐かしい響きや習慣に触れ、子どもと話が弾みました」「お義母さんがよく使う言葉などが入っていて、勉強になった」というように、家族内のつながりや会話も膨らんでいることも分かった。

## (4) 地域全体への影響

カルタを配布した後、早速に「吉里吉里カルタを毎晩眺めている」という高齢者から話を聞いた。震災で地域の姿が大きく変わってしまっているなか、カルタは住民の心のなかにある震災前の思い出とつながることができる媒体として意味があることが伺われた。

「ぬくっこハウス（高齢者用の仮設住宅）の集会場でいつもやっていて、みんな大笑いしている」。お寺の住職からは「お法事の控え室にカルタを置いておくと、おばあさんと孫でやっていて、孫に教えたり、会話が生まれていますよ」と話があり、住民からは「家で孫としている」と写真とともに報告を寄せてくれる方もおり、地域におけるさまざまな場でカルタが活用されるとともに、カルタを媒体に、祖父母世代が孫世代に方言を教えるなどの行為が生まれていることも分かった。

大槌町役場の総合政策課職員からは、この1年入居が進んでいる復興住宅では、大槌町内の複数の地区から移り住むことになり、各世帯の孤立が心配になる中、「吉里吉里カルタを通して、交流が生まれている」とカルタを活用した人びとのつながりづくりの可能性が広がっている様子の報告があった。

「吉里吉里カルタ」増補版は、住民の手で今年1月にジャンボカルタ化され、地域行

事（小学校 PTA 主催のお正月遊びやお茶っ子サロン）で活用されるとともに、大槌町吉里吉里地区の復興協議会からは、「今後はできれば全世帯に配布したい」と相談を受けている。

### 3. 事業に関わった人

- ・ 明治学院大学ボランティアセンター「Do for Smile@東日本」プロジェクト大槌町吉里吉里復興支援プログラム参加学生（約 150 名）及びボランティアセンター教職員 9 名（「吉里吉里カルタ」を用いたカルタ大会、授業等の企画と実施）
- ・ 大槌町教育委員会（「吉里吉里カルタ」の考証、「ふるさと科」の授業の開発と実施、解説文の一部執筆、吉里吉里地区以外の大槌町住民への配布、岩手県沿岸部の小中学校（釜石市、山田町）への配布、ふるさと科授業の検証）
- ・ 大槌町役場総合政策部（「吉里吉里カルタ」の活用方法の検討、チラシの配布）
- ・ 吉里吉里語辞典編纂者（「吉里吉里カルタ」の考証、解説文の一部執筆）
- ・ 大槌町吉里吉里地区復興協議会（「吉里吉里カルタ」の考証、解説文の一部執筆）
- ・ 大槌町吉里吉里公民館（「吉里吉里カルタ」の考証、解説文の一部執筆）
- ・ 吉里吉里学園小学部（「吉里吉里カルタ」の配布、3 年生を対象としたふるさと科授業の共同開発）
- ・ 吉里吉里学園中学部（全校生徒を対象としたカルタ大会の実施、国語授業で「吉里吉里カルタ」の活用）

※このほかに、吉里吉里の郷土芸能団体のみなさま等、詳しくは「吉里吉里カルタ」に同封されている「吉里吉里カルタ解説書」に記載。

### 4. 参加者等

- ①「大槌町立吉里吉里学園小学部」全児童（約 85 名）。そのうち小学 3 年生は 13 名。
- ②「大槌町立吉里吉里学園中学部」全生徒（約 60 名）
- ③吉里吉里小学校 PTA お正月遊び参加者（合計約 50 名。児童、保護者、教職員、地域住民、明治学院大学の学生）
- ④吉里吉里「吉祥寺」住職とその檀家（約 20 名）
- ⑤「浪板交流促進センター」でのお茶っ子サロン参加者（約 10 名）
- ⑥吉里吉里公民館での「おちゃっ子サロン」参加者（約 20 名）
- ⑦上記④～⑥を含めた、大槌町吉里吉里地区の住民約 300 名。

以上